

市内の被害状況 (9月2日時点)

大きな被害が出た近隣自治体に比べ、被害が抑えられた柳川市。しかし、それでも今回の大雨は、市内にはっきりとつめ痕を残しました。

	被害額	内訳など
農業	4億3907万円	大豆：3億7796万円 ナス：996万円 オクラ：709万円 アスパラガス：697万円 水稲：333万円 イチジク：306万円 など
水路	1億4650万円	水路のり面崩壊など 19件
道路	5750万円	道路のり面崩壊 7件
漁業	300万円	中島漁港舗装はがれ
合計	6億4607万円	



【上】昭代干拓海岸に漂着した漁船（15日、午前10時30分撮影）【下】冠水によって枯死が進んだ大豆畑（13日、午後4時撮影）



水に沈むどんこ舟（14日、午後1時20分撮影）



冠水した大浜町のJAカントリー北側の道路（14日、午後0時5分撮影）

観測史上最多雨量を記録

わずか1週間で降った雨は年間の約半分もの量。想像を超える自然の脅威

1週間で870ミリの雨
平年8月1カ月の4倍以上

活発な梅雨前線が停滞した影響で、8月11日から18日にかけて記録的な大雨が市を襲いました。近年、毎年のように発生している「数十年に一度」の自然災害。今一度、日頃の備えや情報収集方法を確認しましょう。

8月11日から18日にかけて、市内に870ミリもの雨が降りました。これは平年8月の1カ月間に降る雨の量の4倍以上。年間降水量の約半分に相当します。特に雨脚が強まった14日、午前2時40分から3時40分にかけては1時間で60ミリと猛烈な雨に。48時間降水量は539.5ミリ、72時間降水量は678ミリとなり、いずれも昨年7月の豪雨を超えて観測史上最多雨量を更新しました。

気象庁の警報に対応して5カ所の自主避難所を開設

気象庁が発表した大雨・洪水警報に対応し、市は12日の午後3時に災害警戒本部を設置。13日の午後6時から、市民文化会館と大和、三橋生涯学習センターの3カ所を自主避難所として開設しました。14日の午

前9時30分には、大雨特別警報が発表されていた大川市と大木町に隣接する昭代校区と蒲池校区に自主避難所を追加。その後、花宗川が氾濫する恐れがあったため、午前11時に警戒本部を対策本部に切り替え、11時40分に根葉地区と金納地区に避難指示を発令しました。

市民の協力で被害を抑制するも大雨のつめ痕残る

市は、平成24年の九州北部豪雨で大きな被害が出たのを教訓に、事前に掘割の水を排水する「先行排水」を本格的に導入しています。今回の大雨でも上流自治体と連携して、先行排水を実施しました。11日から各地域の水門管理人が自主的に約70カ所の排水門を開放。自然排水ができないときは排水ポンプ場20カ所を稼働させました。さらに12日からは、沖端町や筑紫町、大浜町、中島に移動式ポンプを設置して排水を続けました。その結果、市内では床上浸水が7戸と大規模な浸水被害が発生した近隣自治体に比べ被害は抑えられました。

しかし、農業をはじめ水路や道路など、今回の大雨が市内に残したつめ痕は決して小さくありません。いつどこで起こるか分からないのが災害。予測できないからこそ、私たちは常に災害に備えておかなければなりません。

最新の情報はここから入手

今回の大雨による避難所開設などの情報は、市公式サイトやテレビの地上デジタル文字放送、Twitterなどで発信しました。災害が起こったときは、いかに最新の情報を入手するかが大切です。



市公式サイト
緊急情報

Twitter
柳川市防災情報



早期復旧へ向けた国への要望書を藤丸敏衆議院議員（右）へ手渡す金子市長（左）と藤丸議長



【左】水位が上昇した沖端川（14日、午後1時44分撮影）【上】水が流れ込んで冠水したビニールハウス（13日、午後2時30分撮影）【右】掘割の水を沖端川へ強制排水（14日、午前11時32分撮影）

